

## 尾張北部圏域地域アドバイザー報告

今年度の障害者相談支援アドバイザー会議で検討・報告されたことを中心に、一部私見も交えながら3点報告いたします。

### ① グループホーム整備促進支援制度

愛知県では、グループホーム（以下、GH）の整備を促進させるために、先行して設置している法人がコーディネーターとなり、これから立ち上げを検討している事業所をバックアップする取り組みを行っています。

地域アドバイザーとしても、新規に立ち上げたGHへのヒアリング調査を実施し、運営面の課題等の抽出に協力しています。

今年度実施したヒアリング調査からは、近隣住民とのトラブルは少ない一方で、通院時の職員確保や他機関・保護者間との情報共有についての課題が出ています。

直近のアドバイザー会議では、GHの増設と同時に、家族への働きかけも必要だという意見が出ています。また、人材確保や高齢期を視野に入れた支援についても、課題があることが情報共有されています。

### ② 地域の障害児支援体制の整備

これは今年度のアドバイザー事業の重点検討項目になっています。

市町によって濃淡はありますが、大きく次の2点が体制整備上の地域課題として捉えられています。①放課後等デイサービスの質の向上。②教育分野との連携。

今後、障害児の支援体制整備は、県の別事業である障害児等療育支援事業で検討される予定です。

また、整備を効果的・効率的に行っていくために、あいち発達障害者支援センターが養成した「発達障害者支援指導者」を市町の中で活用していくことも求められます。

### ③ 他市町の地域自立支援協議会の検討状況

他市町の検討状況を見ると、次の2点が主な検討項目になっていることが見受けられます。①精神障害がある方への支援（地域移行・定着、地域生活支援拠点含む）、②医療的ケアが必要な子どもへの支援。

どちらも支援の担い手（事業所）が限られる分野であり、ニーズに対してどのように応えていくか難しいところです。

これらのニーズについてアドバイザー業務に照らし合わせると、次の通りに活動しています。

前者に関して、その中でも特に地域移行・定着については、基幹相談支援センター・保健所・地域アドバイザーがコア機関チームを組み、活性化させることが期待されています。今年度は12月に春日井保健所・江南保健所が合同で研修を実施しました。

後者について、春日井市では「つながろう！かすがいネットワーク会議」という医療的ケアに関する有志団体が設立されました。アドバイザーも都合のつく限り参加しています。